

cut

ISSUE NUMBER 75, 2009/06

ニューヨーク!

PAGE 32

Yuki
on the stage

PAGE 06

車や車や車だよ!

PAGE 32



Twilight

CONTENTS

06 YUKI ON THE STAGE

磯谷 有希はすごいです。
1部昇格以前は番組内で放送禁止用語を頻発していた。

12 MONKEY MAJIK GOES AROUND THE WORLD

カナダ人のネイティブ英語と日本語が織りなす歌詞、そしてメロディーが話題を呼んでいる。ツイン・ボーカル、ツイン・ギターという編成も特徴的。

20 TWILIGHT-SAGA

ゴールドの瞳に赤い髪、転校した学校で出会った吸血鬼エドワードと禁断の恋に落ちたベラ。狼人間ジェイコブからの求愛。血を熱くさせる究極のラブ・ストーリー。もうヒトの男なんて恋できない!あなたもきっと熱くなる!コミックよりもおもしろい珠玉のヴァンパイア・ロマンス!

32 NEW YORK, NEW YORK

ニューヨークは全米で最も大きな経済規模を持つ都市であり、世界のビジネスを牽引する世界有数の国際都市である。

40 YOSHIKAWA GETS HER SUMMER WEDDING

まもなく20周年を迎えるリーガロイヤルホテル新居浜から、最大で15の特典がつく、この夏限定のお得な新ウエディングプラン誕生!

45 SETTING UP A FILM BY JOSHUA BURN

特徴は時間の経過がリアルだということ。前作から本当に9年経ってるし、再会して別れるまでの85分がそのまま本作になっている。

60 CARS, CARS, CARS

最近クーペと呼ばれるクルマの数が減ってきているような気がする。

EDITORIAL STAFF

Editor: Carey Winfrey	Managing Editor: Alison C. McLean	Copy Chief: Karen Larkins	Assistant Editor: Amanda Bensen	Photographer: Janina Magnusson
Art Director: Lissa M. Stenberg	Senior Editor: Diane M. Bolz	Photo Editor: Molly Roberts	Web Producer: Ryan R. Reed	Marketing: Beryl Signs
Executive Editor: Terence Monmaney	Contributing Editor: Robert M. Poole	Staff Writer: Abigail Tucker	Editorial Assistant: Megan Gambino	Advertisement: Harry Smith
Web Editor: Maura McCarthy	Senior Photo Editor: Bonnie Stutski	Copy Editor: Jeanne Maglaty	Reader Services: Karla A. Henry	Bankings department: Henry Spine



たがいに惹かれあう
ふたりを、もうだれも
止められない。”

Twilight

The background is black with several thick, vertical red lines dripping down from the top. These lines vary in thickness and length, some ending in teardrop shapes. At the bottom center, a single drop of red liquid has fallen into a pool, creating concentric ripples. The word 'Twilight' is written in a large, white, serif font, with a red liquid drip falling from the letter 'i'.

実はエドワードは吸血鬼。その正体を知ったベラは恐れるどころかますますのめりこんでいくが。

十代男子の青春映画にも見えてなるほどこの手もあったかと思わせる。

吸血鬼は高貴な雰囲気をもとい、ゾクゾクするような美形が相場。抗(あらが)いがたい魅力で人間を虜(とりこ)にし、首筋にがぶり。超人的な力を持つ一方で、太陽には弱いといはかなさもある。あの手この手の吸血鬼ものが作られているのも、そのロマンチックな官能性ゆえだろう。米国のベストセラー小説を映画化した本作は、甘く危険な香りを少女漫画風に料理したラブストーリーだ。ベラ(クリステン・スチュワート)は転校先の高校で神秘的なエドワード(ロバート・パティンソン)に出会い、ひかれていく。実は、エドワードは吸血鬼。その正体を知ったベラは恐れるどころか、ますますのめりこんでいくが、透き通るように青白く、華奢(きゃしゃ)な体の吸血鬼が、霧の中にボーッと浮かび上がる。画面の色調も抑え気味。役者にもどこか影がある。お決まりのニンニクと十字架は一切出さず、美しいものばかりを並べていく。退廃と耽美(たんび)は「インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア」、青春と怪物の組み合わせは「ティーン・ウルフ」とも通じるが、こちらは少年少女のみずみずしい恋物語。コミカルな要素やアクションもちりばめる。エドワードはベラの血を吸いたくてたまらず、いつか吸血鬼の仲間にもしたくないと煩悶(はんもん)する。10代男子の青春映画にも見えて、なるほどこの手もあつたかと思わせる。伏線も残し、続編への目配りも抜かりない。商魂豊かに、ジャンル映画に新風を吹き込んだ。キャサリン・ハードウィック監督。2時間24分。新宿ピカデリーほか。

3人の息子を持つ専業主婦だったが、2003年に見た鮮明な夢が頭から離れなくなる。すべてを後回しにして、日中にあらすじをまとめると、家族が寝静まった夜、パソコンに向かって書き始める。それから3ヵ月後、ついに処女小説を脱稿。それが『トワイライト』だ。2005年に出版されるや数週間のうちに、ニューヨークタイムズ紙のベストセラーランキングの5位に初登場した。現在、『トワイライト』は840万部以上売り上げている。期待の続編『New Moon』は2006年9月に出版され、ニューヨークタイムズ紙のベストセラーランキング1位の座に、31週間君臨した。待望の同書は、大ファンがネットオークションで新刊見本を380ドルで落札したほどだ。『New Moon』は500万部売り上げ、34ヶ国で翻訳されている。『トライライト』シリーズの3作目、『Eclipse』は2007年8月7日に出版され、発売初日だけで15万部売り上げた。USAトゥデイ紙やウォール・ストリート・ジャーナル紙など全米のベストセラーランキングで初登場1位を飾った。同書は380万部を売り上げ、ドイツ、スペイン、アルゼンチンでもベストセラー1位に輝いている。『トライライト』シリーズを締めくくる4作目の『Breaking Dawn』は、2008年8月2日に出版されたが、初版320万部という出版業界始まって以来の最大初版部数だった。同書は発売初日に130万部、売れ、全米のベストセラーランキング1位に躍り出た。